

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間】

R3.5.17(月)～R3.5.23(日) 令和3年第20週

<感染の状況(直近1週間)>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
陽性者数	① 合計	502人	483人	-	-
	② 対人口10万人	32.8人	31.6人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.04	1.08	-	-
④ 感染経路不明割合(%)		51%	58%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率(%)		12.1%	10.7%	5%以上	10%以上

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>		5月23日現在	5月16日現在	-	-
⑥ 入院患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	90人	75人	-	-
	確保病床数	241床	241床	-	-
	病床使用率	37.3%	31.1%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	16人	11人	-	-
	確保病床数	30床	30床	-	-
	病床使用率	53.3%	36.7%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	843人	773人	-	-
	⑨ 対人口10万人	55.1人	50.5人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>	5月23日現在	5月16日現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※2} (%) = 入院中の患者÷療養者数(陽性確定例)	10.7%	9.7%	40%以下	25%以下

※1 入院患者及び重症患者並びにその病床数は、令和3年5月4日公表分から、「疑似症患者を含む」から「陽性確定例」に変更して公表

※2 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院優先度判定スコア等を用いて入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

※3 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

＜変異ウイルス検出状況＞

集計期間			直近1週間 5/17 ~ 5/23	前週 5/10 ~ 5/16	累計 3/11 ~ 5/23
N501Y変異ウイルス検査	川崎市健康安全研究所	検査実施数	106件	83件	640件
		検出数	97件	55件	397件
		検出率	91.5%	66.3%	62.0%
	民間検査機関等※4	検出数	42件	51件	219件
ゲノム解析結果 ※5	国立感染症研究所	英国株	86件	0件	135件
		南アフリカ株	0件	0件	0件
		ブラジル株	0件	0件	0件
		その他	0件	0件	0件

※4 民間検査機関等による検査実施数は不明のため、検出数のみ掲載

※5 ゲノム解析は、国立感染症研究所で実施しており、検査結果は不定期で報告されている。

＜評価＞

＜評価＞

令和3（2021）年5月17日（月）～5月23日（日）（令和3年第20週）の川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況は、以下のとおりです。

＜感染の状況＞

- 新規陽性者数は、1月4日～1月10日（第1週）の1123人をピークとし、第9週120人まで減少。4週連続して微増が続いた後、第14週240人、第15週394人、第16週375人、第17週478人、第18週448人、第19週483人、今週（第20週）502人と微増傾向が続いています。
- 直近1週間の人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、第1週の73.40人をピークとして第9週7.84人まで減少。その後4週連続して微増が続き、第14週15.69人、第15週25.75人、第16週24.51人、第17週31.2人、第18週29.3人、第19週31.6人、第20週32.8人と微増傾向が続いています。第16週まではステージⅢ相当（15人以上）でしたが、第17週より4週連続してステージⅣ相当（25人以上）となっています。
- 週当たりの陽性者増加比も、第1週の2.08をピークに、第9週0.82まで減少。その後4週間は大きな変動がなく経過しましたが、第14週1.39、第15週1.64、と増加幅が大きくなり、ました。第16週以降は1前後が続いており、今週（第20週）は1.04で前週の1.08をやや下回りました。

- ④ 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、第 9 週までは 40%前後でしたが、第 10 週から 46～66%を変動し、第 18 週 55%、第 19 週 58%、今週（第 20 週）は 51%と前週を下回りましたが、3 週連続してステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）となっています。
- ⑤ 直近 1 週間の検査陽性率は、第 9 週から 3.32%～第 14 週 6.97%と 6 週間連続して微増。第 15 週 10.7%、第 17 週 11.3%、第 18 週 15.3%、第 19 週 10.7%、今週（第 20 週）は 12.1%と増加し、4 週連続してステージⅣ相当（10%以上）となっています。

<医療提供体制等の負荷>

- ⑥ 確定患者数（陽性確定例）は第 16 週 93 人、第 17 週 90 人、前週（第 18 週）86 人、第 19 週 75 人、今週（第 20 週）は 90 人と増加しました。
- ⑦ 重症患者数（陽性確定例）は第 16 週 13 人、第 17 週 11 人、前週（第 18 週）12 人、第 19 週 11 人と大きい変動はありませんでしたが、今週（第 20 週）は 16 人と増加しています。
- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 18 週 545 人、第 19 週 773 人、今週第（第 20 週）は 843 人と増加しています
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 17 週 38.7 人、第 18 週 35.6 人、第 19 週 50.5 人、今週（第 20 週）55.1 人と増加し、4 週連続してステージⅣ相当（30 人以上）となっています。

<感染の状況>については、第 16 週～第 18 週は増加と立ち止まりを繰り返していましたが、第 19 週は⑤陽性率を除いて①②③④いずれも数値が増加、第 20 週は③陽性者数の前週との増加比、④感染経路不明割合を除いて①②⑤が増加しました。①②は 2 週連続して増加したことになります。②はステージⅣ相当（25 人以上）、④直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、ステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）のまま、⑤陽性率もステージⅣ相当（10%以上）のままとなっています。

<医療提供体制等の負荷>については、⑥入院中の患者数は 90 人、86 人、75 人と減少が続いていましたが今週は 90 人と増加し、病床使用率も 37.3%、35.7%、31.1%と減少が続いていましたが今週は 37.3%と増加し、ステージⅢ相当（20%以上）のままとなりました。⑦入院中の重症患者数は 11 人、12 人、11 人と大きな変動なく推移していましたが、今週は 16 人と増加し、病床使用率は 36.7%、40.0%、36.7%から今週（第 20 週）は 53.3%となり、ステージⅢ相当（20%以上）からステージⅣ相当（50%以上）となりました。⑧療養者数は合計数、対人口 10 万人ともに増加し、対人口 10 万人は連続してステージⅣ相当（30 人以上）となっています。

ステージ分類の指標となっている 6 項目（参考数値を除く）のうち、ステージⅢ相当が 2 項目から 1 項目へ減、ステージⅣ相当が 4 項目から 5 項目に増となっており、感染者数の増加とともに医療提供体制等の負荷も増加しており、急増は避けられているものの引き続きの警戒が必要な状況です。

<変異ウイルス検出状況>

N501Y 株については増加傾向がみられています。

5 月 25 日現在、「緊急事態宣言」下にあるのはこれまでの東京都・京都府・大阪府・兵庫県・愛知県・福岡県、北海道・広島県・岡山県に沖縄県が加わった 10 都道府県。「まん延防止等重点措置」下にあるのは埼玉県・千葉県・神奈川県・愛媛県・岐阜県・三重県・群馬県・石川県・熊本県の 9 県となっています。神奈川県では川崎市・横浜市・相模原市に次いで鎌倉市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市に加えて、5 月 12 日から横須賀市・藤沢市・茅ヶ崎市・逗子市・三浦市・伊勢原市・葉山町・寒川町が追加され、いずれも 5 月 31 日までとされています

本市におきましては、これまでの陽性者の発生状況は、お正月明けの第1週をピークとして減少が続き、第10週あたりから微増傾向、第14～15週はその増加幅が大きくなりました。第16週は増加が立ち止まり、第17週は再び増加、第18週は増加が立ち止まりましたが、第19週と今週第20週は再び増加傾向となっており、一段強化した注意と警戒が引き続き必要です。

入院患者の受け入れと治療、その他の通常医療については、本市では現在は比較的落ち着いた状態で行なわれていますが、今週（第20週）は入院患者数、重症者数、全療養者数はいずれも増加しており、こちらについても一段強化した注意と警戒が必要となっています。

関西方面では、感染者数はようやくピークをすぎた感がありますが、中～重症者の増加傾向が見られており、関東方面でも今後に向けて注意が必要です。また関西方面で急増している変異ウイルス（N501Y:英国株）は本市を含む神奈川県でも増加傾向にあり、感染の広がりや速さ、高齢者のみならず若～中年層への肺炎発症数の増加などに対して関西方面の経験も踏まえて警戒されているところではあります。

人の動き（人流）の増加と感染症の増加はつきものです。今週（第20週）は入院患者数、重症者数、全療養者数はいずれも増加しており、ステージIV相当となる指標も4項目から5項目と増加しており、日中を含めた外出の自粛、都道府県をまたぐ移動の自粛など、しばらく大変なご不便、ご迷惑をおかけしますがどうかご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

もちろん生活に必要な場合等についての外出は可能です。屋外での運動や散歩などは、健康の維持のためにも必要です。ただし、どちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数で過ごされますようお願いいたします。三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、飲食の場あるいは日常生活において、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点であり、これまでのウイルスであっても変異型のウイルスであっても共通の、また有効な予防対策法です。

本市におきましては、高齢者の方々への新型コロナワクチンの集団接種および個別接種がスタートしました。使用できるワクチン数も増加しているところです。しかしながら多くの方々へのワクチン接種と、新型コロナ陽性者数や入院や施設療養者数の急増のタイミングが一致してしまうと、医療のみならずワクチン接種にも影響が及んでしまいます。スムーズで安全なワクチン接種の点からも、少しでも陽性者数が増加しないようご協力をお願いいたします。